

平成18年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成18年4月現在)を抜粋

機 関 名	徳島大学	整理番号	f004
1. 申請分野(系)	医療系		
2. 教育プログラムの名称	歯科専門医教育の指導者養成プログラム		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 歯学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (保存治療系歯学、補綴理工系歯学、外科系歯学、矯正・小児科歯学、 歯周治療系歯学)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 口腔科学教育部・口腔科学専攻 [博士課程(一貫制)]	<u>研究科長(取組代表者)の氏名</u>	
	(その他関連する研究科・専攻名)	坂東 永一	
5. 本事業の全体像(わかりやすく、具体的に記入してください。)			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>徳島大学大学院口腔科学教育部(平成16年度に歯学研究科から改組)は、四国地方で唯一の歯学の大学院教育機関であり、地域の高齢者を対象としたフィールドワークから世界最先端の生命科学研究に至るまで、創造性豊かな幅広い研究を展開して国内外からの高い評価を得ている。また、このような活動を通じて優秀な人材を育成し、社会貢献してきた実績がある。一方、本教育部の学術研究・教育活動に対しては、施設・設備の整備のみならず、学長裁量経費や学長裁量ポストを随時充当して、経済的、人的、精神的側面から大学全体として強く支援してきたところである。</p> <p>今回の事業計画に掲げる「歯科専門医教育の指導者養成プログラム」は、21世紀のわが国の歯学の発展を支え、国民の健康増進に寄与する重要な課題であると言える。また同時に、本事業を通じて大学院教育の実質化を図る取り組みは、徳島大学の基本理念を具体的に実践・支援するものであり、本学の中期目標・中期計画の達成にも直接寄与するものと考えられる。このような魅力ある新しい取り組みに対しては、今後も大学全体として全面的な協力を惜しまない。</p>			

機 関 名	徳島大学	整理番号	f004
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(これまでの改善点と、今後の課題について)</p> <p>① これまでの改善点：昭和58年4月に歯学研究科(博士課程)が設置されて以来、歯科医学領域の教育、研究、臨床において指導的役割を担う人材の養成をめざして教育研究活動が行われてきた。また、平成16年4月には、徳島大学の医療系大学院である医学、歯学、薬学、栄養学の4研究科が統合し、ヘルスバイオサイエンス研究部(教員組織)が設置され、併せて歯学研究科(定員18名)は口腔科学教育部(定員26名)へと改組された。これにより専門分野に偏ることなく医療人として必要な幅広い知識を修得し、自立して研究活動を行う高度な研究能力と豊かな学識を備えた研究者の養成のための教育基盤が形成された。</p> <p>② 今後の課題：従来の口腔科学教育部の博士課程は主に基礎研究に重点が置かれたものであり、ともしれば臨床教育・臨床研究は軽視される傾向にあったことは否定できない。一方、i) 歯科医師臨床研修(平成18年度から卒後1年間必修化)修了後の専門臨床教育への接続性の担保、ii) 歯科専門医制度に対応した指導者養成ならびに教育システムの充実、iii) ヒトを対象とした臨床研究の質の向上と科学的根拠に基づく歯科医療(Evidence Based Dentistry: EBD)の開発実践、等に関連した問題解決が喫緊の課題となっている。さらに、平成17年9月の中央教育審議会答申には臨床に特化した博士コースの必要性が明記され、医療系大学院レベルでの積極的な対応が求められている。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(5-(2)を踏まえた大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組、発展的展開のための計画、及びこの取組によって改善が期待される点について)</p> <p>① 博士(臨床歯学)コースの新設による教育課程の実質化：インプラント、矯正歯科、歯周病、顎機能異常、口腔外科等に関連した、高度の専門性を要する最先端の歯科医療の診断・検査技法、治療手技等を修得させる。また併せて、疾病の成因、新しい安全な診断・検査・治療法の開発・評価、臨床疫学などに関連した国際的評価に堪えうる臨床研究を行う。</p> <p>② 国際レベルの高度な臨床歯学教育プログラムの導入：米国テキサス大学ヒューストン校をはじめとした海外の学術交流協定校との間に教員や学生の短期ならびに中長期滞在プログラムを設け、世界最先端の歯科医療に関する情報収集や、治療技術の修得を行う。また、成績評価や単位の修了認定等においては、海外の著名な臨床医、臨床研究者等を招き、客観性向上に努める。</p> <p>③ 専門分野に応じた指導体制とカリキュラムの充実：既存の講座・分野・診療科に縛られない、水平的かつ横断的な指導体制を確立し、専門医・臨床研究者の養成に必要な知識・技能を体系的に修得できるシステムを構築する。また、カリキュラム設定に際しては、その選択コース、定員等に関して教育部内で十分吟味した上で、効率的な制度設計と運用を目指す。修了年限は4年とするが、成績優秀者には3年時での早期修了の機会を与える。</p>			

6. 履修プロセスの概念図(履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)

一般学生(歯科医師臨床研修修了者)、社会人、外国人留学生

口腔科学教育部 (定員26名)
 博士(歯学、学術)既存コース(13名)、**博士(臨床歯学)新設コース(13名)**

履修指導
 コースワーク
 論文指導
 学位審査

◆「知の形成」
 先端口腔科学特論:【1-2学年】
 共通科目:【1-2学年】
 博士課程において修得しておくべき基礎的知識を広く身につける。

◆「知の探求」
 口腔科学課題選択科目:【1-2学年】
 専門教科に関する知識を深化させ、研究に必要な技能を身につける。

◆「知と技の融合・昇華」
 口腔科学課題研究演習:【3-4学年】
 研究や臨床のデータをまとめて公聴会形式で発表し広く多数の教員の指導を受ける。

海外学術交流協定校との提携プログラム

ヒトを対象とした臨床研究

国際シンポジウム

◆「技の修得」
 実践口腔科学実習
 【1-4学年】

- (a) インプラントコース
- (b) 矯正歯科コース
- (c) 歯周病コース
- (d) 顎機能コース
- (e) 口腔外科コース

専門歯科臨床実習を通じて最先端の診断・治療能力を身につける。また臨床研究のテーマを発掘する。

博士(歯学・学術)コース(既存) 26名→13名

博士(臨床歯学)コース(新設) 0名→13名

- ◆目標: 博士課程における専門歯科臨床教育の実質化と国際化を図る。
- ◆特色:
 - 1) 専門歯科臨床教育に特化したコースの設置。(インプラント、矯正歯科、歯周病、顎機能、口腔外科)
 - 2) ヒトを対象とした歯科の臨床研究・臨床試験に関する教育研究の活性化。
 - 3) 国際レベルの高度な臨床歯学教育プログラムを導入。(海外の大学への学生・教員の派遣、国際シンポジウムの開催、著名な臨床医の招聘等)

養成される人材像

- ・ 高度な専門歯科臨床の技術・知識を備えた優秀な**歯科専門医教育の指導者**
- ・ 科学的根拠に基づく歯科医療(EBD)を開発研究する優れた**臨床歯学研究者**

<審査結果の概要及び採択理由>

「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化(教育の課程の組織的な展開の強化)を推進することを目的としています。

本事業の趣旨に照らし、

①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか

②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか

の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が優れており、十分期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に十分適合しており、その実現性も高く、一定の成果と今後の展開も十分期待できると判断され、採択となりました。

なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。

[特に優れた点、改善を要する点等]

- ・大学院教育を実質化することにより、臨床に特化した研究マインドを持った「歯科の専門医教育の指導者」を養成するという目的が明確であり、国際的教育も考慮されている。
- ・ただし、専門医教育の指導者養成コースとしては学生数が多いことから、指導体制や大学院教育におけるFD(教育内容・方法等の組織的な研究・研修)の実施体制の確立と整備については、教育プログラムの実施に際して更に留意する必要がある。